記者会見資料№.１

長岡市

令和２年１２月７日
地方創生推進部イノベーション推進課

戦前から戦災復興までの記憶をより鮮明に表現！
白黒写真７枚のカラー化により戦災体験を継承

このたび、長岡市が渡邉英徳・東京大学大学院教授及び新潟日報社と共同で実施した「『空襲から復興へ』写真カラー化プロジェクト」により、ＡＩ画像認識による白黒写真７枚のカラー化が実現しました。

これは、長岡空襲から 75 年の節目にもかかわらず、新型コロナウイルスの影響により、平和関連行事が縮小されたほか、空襲体験者の体験談を直接聞いてもらうことが難しい状況が続いていることから、戦災体験の継承に新たな発想や最新技術が寄与する可能性を模索したものです。

この取り組みにより、空襲体験者が持つ心象風景をよりリアルな形で表現するとともに、戦前から空襲を経て復興に至る幅広い記憶と体験者の想いの継承を図ります。

１　事業の概要

（１）概要

市や個人が所有する戦前から復興期(昭和 30 年頃)までの白黒写真を、ＡＩによってカラー化。これを空襲体験者に見てもらい、当時の色の記憶をもとに着色の補正を行うことにより、体験者の心象風景の具現化を図る。あわせて、カラー化された写真をきっかけに体験者から語られた体験談や思い出を聞き取り、保存する。

（２）カラー化した写真

７枚（空襲で焼けた市中心部や復興を遂げた長岡駅前の様子など市所蔵のもの５枚、戦地に赴く前に撮った家族の集合写真など個人所有のもの２枚）

（３）作業の流れ

①ＡＩによるカラー化（渡邉教授、８～９月）

②カラー化した写真を空襲体験者に見てもらい、当時の色の記憶とともに体験談や思い出を聞き取り。その他、長岡戦災資料館関係者にも色彩の情報を確認（新潟日報社・長岡市、８～11 月）

［聞き取り先（計５人)］

金子登美（かねこ・とみ）さん（空襲体験者・長岡戦災資料館運営ボランティア）
今泉　弥（いまいずみ・わたる）さん（同）
今泉恭子（いまいずみ・きょうこ）さん（同）
清水誠一（しみず・せいいち）さん（同）
鷲尾公雄（わしお・こうゆう）さん（空襲体験者・広西寺(柿町)前住職）

③カラー写真の色を補正（渡邉教授、９～11 月）

（適宜②－③の作業を繰り返す）

（４）公開スケジュール

12 月 6 日(日)　　新潟日報紙面に掲載

裏面に続く

12 月 8 日(火)～21 日(月)　まちなかキャンパス長岡に展示
（大手通２丁目６　フェニックス大手イースト４階）
12 月 22 日(火)以降　長岡戦災資料館で閲覧に供する
12 月 25 日(金)発行　市政だより１月号に掲載
１月以降(時期未定)　アオーレ長岡に展示
長岡市ホームページに掲載

※渡邉教授のプロフィール

渡邉英徳（わたなべ・ひでのり）　東京大学大学院情報学環教授

昭和 49 年、大分県生まれ。情報デザインとデジタルアーカイブによる記憶の継承のあり方について研究を進める。これまでに「ヒロシマ・アーカイブ」「ナガサキ・アーカイブ」などを制作。平成 28 年から白黒写真のカラー化を始め、平成 29 年から庭田杏珠(にわたあんじゅ)氏と共同で「『記憶の解凍』プロジェクト」に取り組み、令和 2 年 7 月に『ＡＩとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争 』（光文社新書） を発刊。岩手日報社との共同研究成果「忘れない:震災犠牲者の行動記録」は日本新聞協会賞(平成 28 年)を受賞。その他、文化庁メディア芸術祭、アルスエレクトロニカなどで入選・受賞。

※本件「『空襲から復興へ』写真カラー化プロジェクト」には、東京大学として参画しているものではないため、渡邉教授への言及にあたっては「渡邉英徳・東京大学大学院教授」や「渡邉英徳（『記憶の解凍』プロジェクト）」としてください。

２　写真の提供について

・今回の取組について報道いただくために、当プロジェクトでカラー化した写真及び白黒写真について、データ（jpeg 形式）で提供することが可能です。
・希望する社は、イノベーション推進課にＥメール（innovation@city.nagaoka.lg.jp）で件名に「戦災カラー化写真（社名)」、本文に社名、担当者、メールアドレスを明記してお送りください。
・写真使用の際は、「提供：(写真所蔵者氏名)・『空襲から復興へ』写真カラー化プロジェクト」のクレジットを入れてください。

問い合わせ：(プロジェクトに関すること）イノベーション推進課　電話 0258-39-2364
(平和事業に関すること)　庶務課　電話 0258-39-2203